

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(東舎ユニット)		
所在地	島根県出雲市宇賀町23番地1		
自己評価作成日	平成24年9月23日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東舎は「笑い声を生み出す支援」を意識して毎日を通している。9人様々の個性・特徴を知り(見極め)、支援につなげている。ひとつのレクリエーションにおいても担当(得意・できること)分野を分けて、それぞれのパートを受け持って頂き、最後に合作して作り上げている。レクリエーション担当を中心に、毎月1作品、季節(月)に合わせた大作を作っている。また、スタッフが明るい口調、笑顔で元気良く接する、を意識する事で、利用者さまにも伝わり、自然と楽しい雰囲気、笑顔・笑い声が生み出されていると感している。今後も①おしゃれ②外出③美味しい物を食べるをキーワードに支援を続けたい。楽舎で命を輝かせて生きておられる事への支援を喜びとする様に頑張っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価は全職員で取り組んでおり、評価を通して事業所の質をさらに高いものにならんとする姿勢が窺えた。職員の声掛けや対応は、あくまで利用者のペースに合わせたさりげない穏やかなものであり、調査日当日の利用者や職員の笑顔やいきいきとした表情からも利用者や職員が共に過ごし支えあう良好な関係と、事業所のケアの質の良さが窺えた。管理者・職員のヒアリングからは認知症のケアに対する熱意と情熱が感じられ、管理者と職員との意思疎通も図られ、連携も十分に取れており、何よりも全職員が一丸となった強いチームワークの上に成り立つ利用者本位の良質のケア提供がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で暮らす。たとえ認知症になっても一瞬の笑顔で過ごしたい、わが身に置き換えて自分の事として取り込む姿勢を日々実践している。(入社時の新人研修にて理解、毎朝の理念唱和し実践)	職員全員がユニット独自の理念を作り上げ、事業所内に掲示するとともにミーティング等での話し合いもなされている。理念に基づいた月毎の目標を決め共有が図られ、実践に生かされていることが窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回の平田福祉フェスティバル(音楽療法の発表)など地域へ利用者さま全員と一緒に元気で参加!!今年で6回目の参加で、平田地域のみなさんも今年も楽しみにしていた。楽舎さんの歌を聞くと元気が出るとエールを送って頂いている。	地域の行事にも積極的に参加しており、ボランティアを含む地域との交流も日常的である。地域に対して認知症の啓発の場ともなっており、地域とのつながりは評価に値する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校の仲良し給食に招待されたり、小学生さん、ハッピークラブさん、中学生さんの地域貢献学習で、交流に訪問して下さり、楽舎のみなさんを通じてお年寄りを敬う気持ちを育む心、力に一役かっていると思う。楽舎にまた来ていいですか!→楽舎のおじいちゃん、おばあちゃん大好きとお話にくる。一文返事を出すなど今も交流が続いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	楽舎の年間運営推進会議の計画、目的を打ち出し、認知症について説明し楽舎の取り組みを伝え、その都度意見を取り入れ、振り返りをする事を重要としている。毎回10人~15人参加している。	会議は参加者も多く、利用者の様子や事業の報告が行われるとともに、地域との連携や利用者の状況に応じた支援のあり方などについて、活発な意見交換がなされており、出された意見を事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市への陳情をしている。直接(グループホーム居室料、補助金)署名1万人分持参し、市長へお願いするなど、現状を伝えている。	行政に対しては都度連絡、相談を行うことができおり、日々の相談や運営推進会議などから、良好な協力関係がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護研修などに参加し、楽舎にフィードバックし、カギをかけない支援方針を徹底している。スピーチロックなどについてスタッフ間でも互いに勉強し、取り組む姿勢がある。	身体拘束をしないケア提供への意識は高く、言葉による拘束も含めて身体拘束は行わないケア提供がなされており現在事例はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さまの出来る事をきちんとアセスメントし、出来ない所はさりげなく出来るところまでスタッフが手を出しすぎないケアに取り組んでいる。服薬など一連の行為が出来る方にまで手を出しすぎず、確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県の研修会に参加し、事業所にてスタッフで車椅子体験をしたり、フィードバックして理解を深めている。また、成年後見制度についてご家族に説明して利用もして頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または、改定等の前にご家族に説明し、理解を得て1/3以上のご家族の出席を持って同意を得ている。又、決定した事などはその都度全員にお手紙にて送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご家族の出席率もよく、テーマ(目的)を持って意見交換している。利用者さまの声は介護相談員の聞き取りや、ケアプランのモニタリング、毎日の会話にて情報収集し反映させている。面会時、病院受診後に必ずお話しさせて頂き(要望を書面にて残し)改善する様にしている。(介護録に残す)	ホーム便りの送付や手紙を書いて日々の様子を知らせており、行事や運営推進会議には家族の参加も多い。アンケートを実施し、出された意見は検討し、日頃の支援へ生かす取り組みが構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの時、月1回の研修会、年1回の人事考課にて意見を反映させている。	全職員が目標を決め、定期的に管理者と職員で意見交換を行っている。スタッフ間の関係は良好で気軽に相談出来る体制があることが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年の初めの目標、標語作り、人事考課、目標、振り返り、見直しを個人、ユニット、会社と向上心を持って取り組んでいる。必要に応じて個人面談を行い、スタッフの悩みや相談事を積極的に解決出来るように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修など積極的に受講(勤務中)させるなどし、今年も多くのスタッフが免許や資格を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と懇親会、勉強会等の交流をしている。2か月に1回、又必要であれば随時行い、良いことであれば取り入れたり、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面会、アセスメントなどに出向き、顔つなぎしている。カンファレンスを行い利用者さまの想いの把握・共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係	入居、ショートステイの前に事業所を見学して頂いたり、話し合いの場を設けたりと情報・思いを知るようにしている。(安心感)入居後は、いつでも面会をして頂き、その都度利用者さまの生活、様子をお話し、コミュニケーションを取っている。意見・要望が言いやすい雰囲気づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が困っているか？どの場面、部分でどのような支援が必要か？生活歴・日常生活を含め最初の段階でしっかり情報を得る。それに見合った支援方法、サービスを提供・提案して少しでも不安を取り除けるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のお話はもちろん、様々な暮らしの知恵、調理の仕方など色々な物を教えて頂いている。利用者さまが昔のことを思い出しながら話される時、表情がいきいきしている。その瞬間を大切に。家事を中心にできることはやって頂き、時には利用者さま主導で物事を進めている。意見を聞きながら、利用者さま主体の生活をしているが家族のように意見交換もしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、情報交換、共有など関わりあったり、コミュニケーションを常に取っている。又、年2回の大きな行事(福祉フェスティバル・ありがとう会)へ参加し、絆、尊さ、大切さ、現状理解を含め接して感じて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味・日課を継続して頂き、メリハリある生活を送って頂けるよう支援している。手紙を書いて頂いたり、ドライブで行きたい場所、昔住んでおられた場所へ出かけるなどして懐かしんで頂いたり、近所の方とも入居後も関わりが持てるような支援をしている。(俳句会)ご本人やご家族から情報を得て、関係を保てるような支援を考えている。	馴染みの場所や店、希望する場所に外出する支援がなされており、ボランティアの導入も積極的である。家族との交流も活発であり、縁者の方にも写真や手紙で近況を知らせることもしており、好評を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の性格を知り、人それぞれ違った個別支援を行う。ホールでは席を考えたり、距離感を考えたりと工夫している。時にはスタッフが間に入り、パイプ役のような事を行うこともある。誰もが嫌な思いをしないように気を配りながら安心して生活して頂けるよう、関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、行かれた先の施設や病院へ面会に行き、楽舎での思い出の品や季節の作品を持って行き、飾ったりお話をしたりして、つながりを大切にしている。(敬老の日には贈り物を持って行き顔を見に行く)退居時には必ずアルバムを作ってご家族に手渡し、何かあれば相談に乗れるよう、電話番号や連絡先も一緒に添えている。(楽舎の助死士としての関わり、退居後も最後まで関わりを持ち見送る)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビやラジオなど、その方にとって生活が豊かになり必要なものがあればご家族とも相談し持って来て頂いている。毎日の記録をモニタリングして、より安心できる暮らしをして頂ける様、必ずご本人と話し合っって検討し、介護計画を作成している。	本人の思いや意向に添うように努めており、意向把握が困難な場合は、利用者主体とし、家族から意見を聞いたり、日々の生活から意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービスの情報をもらっている。入居時、家族から生活歴、生活プロセスなどを書いて頂き、利用者さまとの会話からもどのような人生を送って来られたのか、把握に努めている。細かなしぐさ、行動や言葉からも生活リズムや想いを感じとり支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を記録する表があり、SPO2も含め毎朝全員のバイタルチェックを行い、異常があれば再検し、誰が見ても一目で分かるようにしてある。また水分、排便、食事量も記入できるようにしてあり、身体状況を把握している。気づいた事は検討会議録・モニタリングを行い、スタッフ同士共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の時点でご本人、ご家族とお話をしたり面会時にどのように楽舎で過ごして頂きたいのか、その時の状況に合わせて希望・要望をお聞きしている。安全に、過ごしやすく現状に合った計画を立てる。	利用者、家族と話し合い、利用者本人の思いや暮らし方を大切にケアプランが作成され、日々の業務でプランを実践している。プラン作成時のカンファレンスに家族参加が得られない場合は、カンファレンスの記録を郵送するなどし、家族と一体となったサービス計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや状態、ケアプランの長期・短期目標の評価を毎日カルテに記録し、気づいた事はスタッフ間ですぐに共有できるようにしている。(検討会議)申し送り中、スタッフで話し合う場を作り、その都度計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居される前に情報をしっかり把握する。家で使い慣れた愛着のあるものを持って来て頂き、家を再現し、安心感を感じてもらう。(居室の配置)家族の面会時にはゆっくりお話ができるよう必ずお茶をお持ちし、心地良いスペースを作る。病院対応も遠方のご家族など、状況に応じてスタッフや看護師が同伴・対応することもある。(又はヘルパー対応)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から参加していた地域のコミュニティセンターでの俳句の会への継続した参加をスタッフは支援している。句会への送迎や課題への支援を行い地域の馴染みの顔を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医を継続し、馴染みの関係で安心感を与えている。受診など家族の都合がつかない時はスタッフが受診介助をしている。24時間に対応して頂ける体制にある。	利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族等と共に協力し通院介助を行ったり、訪問診療対応の医療機関を紹介したりしながら、本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェック表で異常があれば再検査し、看護につないでいる。入浴時等全身の観察を行い浮腫や皮膚の異常、腫れ等あればすぐに看護に報告している。個人のバイタルの正常・異常値、服薬状況が分かるよう一覧表にしてあり判断に役立つ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当初から地域連携を通し退院に向けての話し合いを主治医・ご家族を交えて行っている。入院に伴い認知症が進まないようにスタッフは面会を積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はかかりつけ医・ご家族を交え今後の方針を決め、文書にて確認をしている。日頃から病変の変化はこまめに伝えている。楽舎のターミナル指針を契約時に説明している。法令順守の基本姿勢を説明。楽舎の助死師(退居後も最後まで関わりをもち見送る)	本人や家族の意向を踏まえ、事業所で対応できる最良の支援方法を話し合いケア提供がなされている。実際に看取りを行ったケースがあることが職員の意識の向上に繋がっている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の職員研修での検討や伝達、119対応の訓練、119シートの活用、ヒヤリハットからの学び、部所間の情報共有を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練の実施。周辺地域の住民との連携した避難訓練。非常連絡網の徹底・周知を行なっている。水防訓練の実施。所在確認のためのカード作成と活用。避難誘導アセスメントを介護度の変更があれば評価し修正している。	避難訓練・消火訓練を利用者も交え行っている。運営推進会議を通して地域への協力依頼もなされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さまの自尊心を傷つけないよう配慮し、敬語を使い声掛けをしている。また外出される際にも自信を持って楽しく外部の方と交流ができるように、明るくおしゃれな格好で外出して頂いたり、外部の方にプライバシーが洩れないように配慮している。(手荷物でパットなどハンカチで見えないよう包む)	尊厳の重視に関しては、研修や会議等で全職員への徹底が図られている。居室に入る際のノックや声がけなど、日常の様々な介助場面でも配慮が伺えた。個人情報保護に関する対応も的確である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さまの思いを形にできるよう選択肢を出して自己決定して頂ける様支援している。例)好きな服を朝選んで着る、バイキングをして好きな物を好きなだけ取って食べる、ドリンクメニュー表を使って飲みたいものを選んで飲む、俳句の会へ参加する、食べたいおやつと一緒に作って味わう、欲しい物を買って物へ行くなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまが望む事に対し、できるだけ個々のペースに合わせ支援を行うようにしている。おおまかな一日の流れはあるが(メリハリ)、時間でおまかせ、朝食がゆっくりの方がいたり、夜ゆっくりテレビを見てホールでくつろがれる方がいたり、今までのその方の生活ペースを考慮して自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回移動美容車が来て、カットやパーマなどどのような髪型にしたいかを伺い、その人らしいおしゃれができるよう支援している。また外出やイベントがある時にはお化粧をしたり、日頃から朝の整容、爪切り、入浴時の顔剃りなど身だしなみに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さまに献立は何かいいか伺いながら料理を作っている。また、食事の準備(料理、盛り付け)や片付けと一緒に会話しながら行うことで参加を促し、食事が楽しみとなるよう支援している。旬の食材を使い季節を感じられる。台所から良い匂いがし、見た目も彩り良く食事が進む。	食事は炊事、準備、片付けも利用者と一緒に進んでおり、食事は利用者と同テーブルで食べており、調査日は地域の祭りにちなんだメニューであり、世間話などをしながらの和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は一目見て分かりやすい様にカルテに毎日記録し、なかなか食事や水分が入りにくい方は、その方が食べやすい、飲みやすいもの(パン、お粥、おにぎり、その人に合わせて)を、食事の時間以外でも提供している。水分はお茶、ゼリーなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいをして頂き、口腔内を清潔に保っている。義歯は洗浄剤に毎日、つけている。歯のない方には口腔内クリーナーやペロ磨きを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをアセスメントし、その方のタイミング、時間をみてトイレ誘導をしている。また一日約10回は定時の誘導、声かけも行っている。目線の高さにトイレの場所の表示、ペーパーの引き出し口が分かる様に見やすく赤テープを貼ったり、先端を折ったり垂らしたりしている。自分でトイレへ行ける様にイスを置いて、つたって歩ける支援をしている。	必要な方には、排泄時間のチェックを行い、排泄パターンを把握したうえで、無理のないトイレ誘導や水分摂取を促している。季節や昼夜により紙パンツやパット、下着を使い分ける等、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらったり、繊維質の多い食品を摂ってもらい、お腹のマッサージをしたり、温めたり、体操で体を動かしたり、なるべく下剤を使用しない様にしている。15時には歩け・歩け運動を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の無い曜日を決めているが、誰でも何時でも希望があれば入って頂ける。時間帯、季節に合わせて入浴場を温めたり、涼しくしたり、気持ちよく入浴出来る様にしている。	入浴に関しては、夜間の入浴や毎日の入浴など利用者の希望に沿った形で支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく夜にぐっすり寝て頂ける様に日中体を動かしたり、レクリエーションを行なっている。天気の良い日には日光浴を行う。冬場は安眠ミルク(ホットミルク)を提供。体調に合わせてスタッフの目の届く所で休息してもらったりしている。(日中でも)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬、目的をスタッフ同士が共有し、確認に努めている。服薬の支援もきちんと飲んで頂ける様、利用者さまへの声掛け、見守りをしている。薬が変更になれば、その都度申し送りをし、きちんと理解してスタッフ同士共有し、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、料理が得意な方には台所で一緒に食事を作ってもらったり、好きな編み物で作品を作って頂いたり、若い頃幼稚園の先生だった方にはキーボードを使用して歌の先生になってもらったり、その方の生活歴で気分転換の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物と一緒に出かけたり、天気の良い時はドライブ、お茶しにかけたり、地域の行事、展示会、利用者さまの趣味の外出等、気軽に外出される様支援している。	自宅への外出や墓参り、散髪・買い物・外食・ドライブ・花見等外出に向けた機会を多く持つよう支援がなされている。誕生日の利用者と一緒に外食に出掛けたりしており、敷地内の散歩が日課の方もいる。積極的な取り組みがなされており評価できる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診後の支払い、薬代など、スタッフの付き添いの時には、所持して頂き使えるよう、自立支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人へ電話したい、手紙(葉書)を書きたいと利用者さまから要望があればすぐ対応している。耳の聞こえが悪い場合もスタッフが間に入ってやり取りを手助けしている。毎年年賀状を出す支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには月がかわる度にその季節の花を生けたり、作品を利用者さまと一緒に作り、壁面に飾っている。浴室やトイレなど一目見て分かるよう大きな貼り紙をして分かりやすくしている。毎日室温湿度計でチェックし、空調管理している。	リビングからはのどかな季節毎の風景が望めることができ、調理室からの料理の音や匂いが感じられる造りになっている。事業所内には季節の花が飾られ、暖かさが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角にソファとテーブルが設置されており、仲の良い利用者さま同士でお茶を飲んでくつろいだりできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っておられた家具を居室に設置して、居心地良く生活して頂いている。毎月自分で作ったカレンダーを居室の壁に貼ってもらっている。ご家族とその都度、利用者さまの状態に合わせた居室作りを話合っている。(ペット・たたみ)	利用者が自宅で使い慣れた家具や大事な物を持ち込んで頂き、居室が落ち着ける生活の場となるよう支援がなされている。手作りの名札がかけられ、利用者個々の希望に沿った居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るかぎり、手を出しすぎないよう、自立した生活が出来る様工夫しており、夜間トイレ時にフラツキが心配な方には、日中しか使わないイスを並べて、手すりとして使用してもらって自力かつ安全面も注意している。		